

2006年9月25日



第54回日本社会福祉学会全国大会の開催にあたり

第54回全国大会会長

坂田 周一

来る10月7日(土)、8日(日)の2日間、立教大学新座キャンパス(埼玉県新座市)を会場として、第54回全国大会を開催することになりました。今年は、立教大学にとりまして、コミュニティ福祉学部をコミュニティ政策学科と福祉学科からなる2学科体制に改組した初年度、そしてまた大学院コミュニティ福祉学研究科を開設して5年目に当たります。このような節目の年に、5000人余の会員を擁するまでに発展した日本社会福祉学会の全国大会を開催する機会に恵まれたことは、まことに意義深いことと思います。また、会場となる新座キャンパスは、立教大学の全9学部中3学部が拠点を置くキャンパスとして、今春再開発工事を終えたばかりでございます。この地に皆様をお迎えできることを嬉しく思っています。

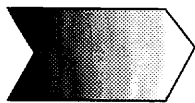
今大会全体のテーマを「新しい価値の創造と社会福祉の役割」という題名に定めましたが、その趣旨の第1は、変化する社会と社会福祉との関係を多様な視点から見つめ、分析、整理して、将来への展望を切り開きたいという課題意識に基づくものです。国際化、少子高齢化、人口減少、就業形態の変化、所得格差の拡大、行財政改革、分権化、個人責任や効率の重視などで表現される社会経済構造やイデオロギーの変化の諸相をとらえて、それらが人間生活ならびに社会福祉にもたらす影響を検討することです。第2は、社会福祉は社会変化の影響を受けるばかりでなく、社会に向かって働きかけ、提案をし、新たな価値を創造する主体的な役割を営んでいるはずだ、とのより積極的なメッセージを表明するためでありました。第3に、社会福祉は、過去から現在にいたる時間軸のなかで、人間生活と社会の在り様を切り開く、新たな価値を確かに創造してきたものとして、そのことを記録に残す必要性を広く学会員に訴える運動的意味合いを込めるという意図がありました。

これらのねらいを具体化するために、さまざまな企画を立てております。記念講演として、先ごろ文化勲章を受章された日野原 重明氏(聖路加国際病院理事長)からお話を伺うことにしております。そして、館野 泉氏にはピアノ演奏をお願いしております。館野氏は脳溢血のため右半身に麻痺を残しながらも、それを克服して左手によるピアノ演奏の新境地を確立された方であります。日野原氏、館野氏ともに、高度の自己実現によって価値創造を果たしておられる方々であると考えております。そして、大会企画のシンポジウムでは、本学の河東田 博教授をコーディネーターとして、シンポジストに石川 准氏(静岡県立大学)、長瀬 修氏(東京大学)、金 永子氏(四国学院大学)をお招きしております。そこでは、価値創造に向けての社会福祉の役割について、多方面から理論的な検討を行うべく準備を進めております。

そして、会員からの研究発表は各種合計して400件を超えました。これらの企画のほかに、日本社会福祉学会の企画によるシンポジウム2本、韓国から研究者をお招きしての日韓シンポジウムが予定されております。

大会の運営は、かなりのエネルギーを必要としますが、参加される皆様にとって実り多い大会となりますよう、本学コミュニティ福祉学部を中心とする教職員、大学院生、学部学生がそれぞれの役割を担い準備を進めております。

一人でも多くの会員が参加されますよう、一同お待ち申し上げます。



第3回 日本社会福祉学会「政策・理論フォーラム」 の開催について

フォーラム企画委員会委員 湯澤直美

日本社会福祉学会が本年度企画した「政策・理論フォーラム」は、本年3月から来年3月にかけて計4回開催するものであり、すでに2回のフォーラムが実施された。第1回のフォーラムでは、「福祉政策の20年を問う」というテーマを設定し、1980年代以降のわが国の社会福祉の政策展開と制度改革を総括的に検討し、新たな方向性を展望する議論がなされた。第2回のフォーラムは、「社会福祉学はいかに自治体の政策形成に寄与できるか」と題し、「構造改革」の動きのなかで進められてきた国レベルの政策のインパクトを検証するとともに、分権化時代を切り開く地方自治体の政策形成のあり方と、政策形成において社会福祉研究の果たすべき役割を検討した。

第3回フォーラムは、「“新たな”社会福祉対象へのアプローチ」をテーマとして、社会福祉政策・理論を対象論の視座から検討する場として位置づけたい。社会福祉の営為は、問題あるいはニーズを掘り起こし制度化してきた歴史の所産であり、問題あるいはニーズを読みとる視角とその先見性が常に問われてきたといえる。とりわけ、近年の市民社会の変容、社会福祉の構造改革などに伴う社会福祉の現代的役割を検討するには、現代の生活問題を基底とする福祉課題の把握が必須である。その際、社会の変容のなかで新たに出現する問題群への視角に加え、①法定化された制度や資格要件に規定された諸問題、②カテゴリー別の制度体系のはざまに取りこぼされていく問題（制度化されていない問題群）、③新たな研究成果により可視化されてきた問題、といった視角を総合化することが重要となる。そして、社会福祉の対象として措置される生活問題を政策に反映できる根拠のある、実証的な対象把握、ニーズ把握、問題分析は、研究者に課せられた課題であるといえよう。

そこで、第3回フォーラムでは、第1回フォーラムで提起された戦後の各対象分野別の政策体系による社会福祉制度・政策の成果と課題をふまえ、時代のニーズに立脚した新基軸となる政策を打ち出す必要があることを念頭に、議論を深めたいと考えている。近年の市民社会の変容は、経済のグローバル化、雇用の流動化や所得の不安定性、新たな環境問題の出現など、人びとの生活を重層的に脅かす生活現実を生み出している。一例をあげると、社会からの排除という問題性をおび現象化しているホームレス問題や外国人問題、私的領域における暴力として顕在化した児童虐待・ドメスティック・バイオレンス・高齢者虐待、引きこもりやフリーターと呼ばれる現代の若者を取り巻く諸問題、政府の対応が問題を深刻化させてきたHIV・ハンセン病問題や災害被災者問題など、多くの問題が可視化されてきている。それらを通底するものとして、所得格差・階層格差をめぐる論議が国民的関心事として広がる一方、様々な論客により示される異なるデータが現実を不透明にしている感もある。

このような今日的様相を踏まえ、第3回フォーラムでは、まず第I部において、社会福祉における「新たな」社会福祉対象と言われる領域で実践や研究を担う関係者からの報告と問題提起をさせていただく。それらの提起を受け、第II部では、社会福祉をめぐる現代的变化のなかで対象論の再考・再検討が「なぜ」「どのように」必要とされるのかについて検討する。そして、社会福祉領域における「ニーズ」とは何か、社会福祉における「対象論」をどのような視角と理論的枠組みで捉え政策につなげるべきかを議論し、問題提起していきたい。

第3回日本社会福祉学会政策・理論フォーラム テーマ：「新たな」社会福祉対象へのアプローチ

- 日 時：2006年12月2日（土）10：00～17：00
- 会 場：愛知県立大学講堂（最寄駅：「愛・地球博記念公園」駅下車 徒歩5分）
- 対 象：日本社会福祉学会会員（非会員も可）
- 定 員：300名
- 参加費：1,000円（食事希望者は2,000円）

*詳細は学会ホームページまたは開催案内チラシをご参照ください。

創設期の人々

岡村重夫先生と浅賀ふさ先生のこと

日本社会福祉学会 名誉会員 児島 美都子

「あきあきて93年秋さらば」と、辞世の句を残して岡村重夫先生がこの世を去られたのは2001年秋だった。大阪の街中に住んでおられた先生は、大阪市立大学、関西学院大学、佛教大学の各教授、大阪府立大学事業短期大学学長などの要職を終えた後、ご夫婦で奈良の有料老人ホームに入居された。しのぶ会で展示された書や絵、陶器などから拝察すると、自然豊かな静かな環境の中で悠々と優雅に趣味の世界に生きられたのだと思う。

一方で、先生はそうした生活に飽きておられたのかもしれない。先生の愛弟子、故中村永司先生のところには、「お惣菜を送って」とよく電話がかかってきたという。食事にも日常生活にも飽きておられたのだろう。

日本社会福祉学会創設50周年の記念誌に掲載された対談「学会創立時の学問状況と思い出の人々」(2004 ミネルヴァ書房)を読むと先生の面目躍如たるところがある。理論的には「社会福祉」ではなく、「社会事業」であるとする意見が大勢を占める中で、「憲法25条は社会保障、社会福祉、公衆衛生と明記している。このうち、定義が明らかでないのは社会福祉だけだ。社会福祉固有の理論があるはず」と主張し、「一日も早く社会事業を卒業して独自の社会福祉学を理論化すべきだ」と自説を譲られなかった。社会保障制度審議会の「社会福祉は社会保障の一部」という考え方にも抵抗し、社会福祉の主體的側面を主張された。名著「社会福祉総論」(柴田書店)は1957年の著書である。岡村理論の核は、社会関係の主體的側面を尊重しつつ、人と社会制度(社会資源)を結びつけるよう援助することを福祉的援助の固有の領域としたと私は理解している。

思いがけなかったのは、しのぶ会で見せていただいた古いビデオに、東京大学(当時帝国大学)の学生の頃の先生が、和服に、袴、学生帽で、東大新人会に参加されたお姿が映っていた

ことだった。先生は社会批判の論理も先刻ご承知の上で、固有の理論を主張されていたのだろう。語学に堪能な先生の膨大な読書量と教養に裏づけられた学識が推察される。

同じ93歳で亡くなられた浅賀ふさ先生は、日本福祉大学を79歳で退職した後、東京都北区の街中で、息子さん一家と一緒に過ごされたが、最後は近所の病院だった。亡くなる少し前、お見舞いにかがった私に、「80代が一番良かった」とベッドから感慨深げに言われた。

いま80歳代の私はそれを実感している。

20歳代で、飛行士の兄とともに渡米、兄の帰国後も一人アメリカに残り、シモンズ女子大学を卒業後、ハーバード大学大学院で学び、アメリカ医療ソーシャルワークの創始者キャボットやキャノンの教えを直接受けて帰国された先生が、1929年(昭和4年)聖路加病院(現在の聖路加国際病院)にソーシャルワーク部を設置し、わが国近代的医療ソーシャルワーカーの第一号になったことは周知のとおりである。

当時のわが国では、ソーシャルワークとは何かを知る人は居らず、「私以外にソーシャルワークができる人はいない。私を雇わなければ損をします」とトイスラー院長(アメリカ人)に直談判して医療ソーシャルワーカーの職を得た。これが日本の医療ソーシャルワーカーの原点である。

市川房枝さんたちと婦人参政権獲得を目指す婦選運動にかかわり、戦前母子保護法を制定させた経験のある先生は、ソーシャルアクションにも熱心だった。

日本福祉大学在任当時は、名古屋市の老人医療費無料化運動や、こども病院をつくる運動にリーダーとして、住民とともに地域ネットワークをつくり、市当局に働きかけた。名古屋市のいまの福祉サービスはそうした土台の上に築かれたものが多い。

いま、医療から福祉への世紀の政策的大転換がはじまっている。新自由主義、グローバリゼーション、経済優先の思想など、反福祉的風潮の中で福祉理論が克服しなければならない課題は山積している。日本社会福祉学会という大きな舞台の上で、若い後継者たちが、理論創造と斬新な実践理論をくりひろげられることを期待したい。(東京福祉大学大学院教授)



日本社会福祉学会 第1回理事会

日時 2006年7月22日
場所 四谷福祉会議室

【会長挨拶】

政策・理論フォーラムはすでに2回開催し、12月愛知県、来年3月に東京で開催が決まっている。
年会費については、2008年度よりの値上げを予定していたが、繰越金が見込めず、2007年度より会費の値上げを検討していただきたい。2007年度は役員選挙を予定しているが、名簿作成については迷惑電話の苦情もあり検討を要す。科研費については、医師や先端研究所などが福祉分野に入ってきている。申請書の書き方も問題があり、書き方の研修も必要である。

【審議事項】

- 第1号議案** 第54回全国大会（立教大学）について
開催校から準備状況等について報告あり。
- 第2号議案** 第55回全国大会（大阪市立大学）
開催期間は予定どおり2007年9月22日、23日
大会テーマは、「社会福祉の主体性」（仮）
- 第3号議案** 2005年度事業報告、決算、監査報告
[承認]
- 第4号議案** 2006年度補正予算
[承認]
- 第5号議案** 2007年度事業計画、予算
来年度は学会役員の選挙の年で、後半の事業は計画しにくい、前半は1～2回政策・理論フォーラムを実施する計画である。2007年度より学会年会費を10,000円として予算計上した。
[承認]
- 第6号議案** 学会年会費の値上げ
2007年度予算案は、年会費を10,000円として学会総会に提案する。
- 第7号議案** 2007年度役員選挙（選挙のあり方、選挙人名簿）
役員選挙については、経費がかかる割に投票率は低いこと、会員名簿が業者に流出している状況について報告があり、運営委員会において選挙改革について再度検討をすること、会員名簿は内容を変更し作成することを確認。
- 第8号議案** 第3回政策・理論フォーラム
第2回は盛況のうちに終わった。第3回は愛知県立大学を会場に12月2日に開催する。テーマを「新たな社会福祉対象へのアプローチ」とした。
- 第9号議案** 全国大会学会企画の進行状況
通称若手シンポジウムは3年目に入る。昨年は量的調査であったが、本年度は独創的研究課題をテーマとしている。
- 第10号議案** 全国大会国際シンポジウム
テーマは児童・家庭の問題で、日本側シンポジウムは才村純会員。

第11号議案 日韓学術交流促進

来年度韓国社会福祉学会は、50周年を迎えるのでお祝いとして楯等を進呈したい。⇒承認

第12号議案 学会入会申込書の変更、登録変更届の新設

個人情報保護法の関係で、入会者の氏名、退会を学会ニュース及びホームページへ掲載することなどを入会案内に書き入れた。登録変更届を新設した。

第13号議案 名誉会員の推挙

右田紀久恵会員について、本年度会員総会に名誉会員として推挙する。⇒承認

第14号議案 入会審査

164名を承認

第15号議案 その他

研究担当理事より全国大会発表のあり方について問題提起（地方部会との関係等）があり、意見交換を行う。

【報告事項】

- 英文誌を今年度発行予定。
- 各地方部会から、部会活動において倫理指針に触れる不適切なものがあったこと、地方助成金の値上げ、政策・理論フォーラム開催における地方部会との意見調整等について意見が出された。
- ソーシャルケアサービス従事者研究協議会において、社会福祉士制度における実習時間をめぐる論議があった。
- 学術会議研連が解散したので、それまでに徴収した会費残金を社会福祉系学会連絡協議会に引き継ぐ。

2006年度第1回理事会 出席状況

| | | |
|------------------|-------------|---|
| 会 長 | 高 橋 重 宏 | ○ |
| 副 会 長 | 古 川 孝 順 | 欠 |
| 総務担当理事 | 上 野 谷 加 代 子 | ○ |
| 庶務担当・関西部会担当理事 | 山 縣 文 治 | ○ |
| 渉外担当理事 | 黒 木 保 博 | ○ |
| 渉外担当理事 | 牧 里 毎 治 | ○ |
| 渉外担当理事 | 坂 田 周 一 | ○ |
| 研究担当理事 | 岩 田 正 美 | 欠 |
| 研究担当理事 | 大 友 信 勝 | ○ |
| 研究担当理事 | 鬼 崎 信 好 | ○ |
| 研究担当理事 | 副 田 あ け み | ○ |
| 研究担当理事 | 平 野 隆 之 | ○ |
| 機関誌担当理事 | 米 本 秀 仁 | ○ |
| 機関誌担当理事 | 中 嶋 和 夫 | ○ |
| 英文機関誌担当・関東部会担当理事 | 福 山 和 女 | ○ |
| 北海道部会担当理事 | 松 井 二 郎 | ○ |
| 東北部会担当理事 | 田 中 尚 | ○ |
| 中部部会担当理事 | 中 田 照 子 | ○ |
| 中四国部会担当理事 | 藤 井 悟 | 欠 |
| 九州部会担当理事 | 田 端 洋 一 | ○ |
| 監 事 | 太 田 義 弘 | ○ |
| 監 事 | 田 端 光 美 | ○ |



新入会員 (164名) 2006年度第1回理事会承認

青木 沙織
青木 真樹子
赤畑 淳
浅井 純二
荒川 裕美子
李 恩周
石井 敏枝
石井 浩
石塚 雅康
井関 良美
井手 巧
伊藤 孝之
井上 真由美
今西 タミ子
伊里 廣子
海口 潤子
梅野 裕紀子
大井 由佳
大岡 雅司
大河内 義和
大竹 良
大西 重洋
大原 奈美子
大宅 賢一
奥村 力弥
尾崎 和宏
長田 けさよ
小野 尚香
小野 俊英
甲斐 朝海
加古 玲子
片岡 智樹
勝 智史
加藤 奈津子
鍋木 万結子
河野 喬
金 康鉉
木村 あい
木村 綾
木村 直子
金 紅梅
権 順浩
口村 淳
雲津 英子
久留須 直也
黒澤 祐介
越石 全
後藤 由美子
小西 律子
小南 早苗
古山 周太郎
近藤 吉徳
斎藤 知子
坂下 智恵
坂原 美花
崎原 秀樹
佐々木 絢子
佐藤 辰夫
佐藤 千恵
佐藤 美紀
佐脇 幸恵
四條 梓
篠崎 良勝
四宮 沙弥香
下尾 直子
下田 徹矢
下満 ゆかり
陣内 哲子
周防 美智子
菅 めぐみ
杉本 範子
鈴木 順子
鈴木 将文
関 恵里香
宋 明鏞
高杉 勇希
高島毛 敏雄
高橋 朋子
高橋 紀子
武田 玲子
竹中 雄一

文京学院大学大学院
(福) 横浜市 YMCA 福祉会
陽和病院
日本福祉大学大学院
川崎医療福祉大学
日本社会事業大学大学院
立教大学
日本福祉大学大学院
北星学園大学大学院
武庫川女子大学大学院
四條畷市福祉事務所
アルファ福祉専門学校
岩手県立大学
皇學館大学大学院
金城学院大学大学院
智泉総合福祉専門学校
財団法人倉敷中央病院
吉備国際大学
久留米大学大学院
アルパック(株)地域計画建築研究所大阪事務所
皇學館大学大学院
久留米大学
豊田市福祉事業団
智泉総合福祉専門学校
福岡県立大学大学院
岡山県立大学大学院
福岡県庁
熊本学園大学大学院
神戸親和女子大学
九州保健福祉大学大学院
岡崎女子短期大学
立正大学
鹿児島国際大学大学院
川崎医療福祉大学大学院
上智大学大学院
大阪府立大学大学院
広島医療保健専門学校
韓国平沢市
近畿福祉大学
龍谷大学
大阪市立大学大学院
東洋大学大学院
龍谷大学大学院
特別養護老人ホーム淡海荘
吉備国際大学
鹿児島医療福祉専門学校
京都府立大学大学院
札幌医学技術福祉専門学校
羽衣国際大学
岡山県立大学大学院
日本福祉大学大学院
東京工業大学大学院
大阪人間科学大学
(株)近代経営研究所
青森県立保健大学
和洋女子大学
鹿児島国際大学
東洋大学大学院
大分市役所
中京学院大学
和泉福祉専門学校
皇學館大学大学院
文京学院大学大学院
八戸大学
大阪市立大学大学院
日本女子大学大学院
京都市紫竹地域包括支援センター
鹿児島国際大学大学院
長崎国際大学大学院
滋賀文化短期大学
関西福祉科学大学大学院
横浜国立大学大学院
とよた子育て総合支援センター
兵庫県社会福祉事業団 赤穂精華園
群馬「輝」
韓国平沢市
松山荘ケアステーション
大阪大学大学院
日本赤十字看護大学
文京女子大学大学院
皇學館大学大学院
広島国際大学大学院

田島 稔
立川 美樹子
田中 真衣
田中 安平
出辺 和子
田原 貴臣
田原 美香
崔 銀珠
趙 唐鎬
津田 史彦
鄭 小華
寺島 正博
傳馬 淳一郎
鄧 俊
徳安 優一
富田川 智志
直島 克樹
中嶋 範子
中嶋 麻衣
永嶋 昌樹
中條 大輔
永杉 憲弘
中田 浩
中野 豊子
名城 健二
西川 喜世実
仁科 伸子
西森 琢
野田 敦史
朴 泰英
橋口 靖大
橋本 圭子
橋本 由紀子
畑 千鶴乃
畑 亮輔
花井 文治
馬場 康徳
東野 充倫
日下 翌
平井 順
平川 明日香
平田 智子
福永 佳也
藤崎 美紀
藤田 緑郎
藤森 一浩
二渡 努
堀 善昭
堀越 正弘
本田 和隆
前川 尚三
前田 小百合
前田 ひろみ
眞境名 望
増田 まゆみ
増谷 憲司
松井 順子
松井 奈帆子
松浦 知子
丸山 龍太
光成 英正
満吉 敬太
峰島 里奈
壬生 明日香
三宅 淑子
村上 彩
村橋 功
文 恵淑
八木 修司
谷口 幸一
柳澤 利之
山内 留美
山浦 君枝
山崎 喜久枝
山崎 弘一
山崎 登志子
山本 正司
吉田 輝美
吉森 恵
米川 和雄
米山 宗久
我妻 愛

創造学園大学
九州看護福祉大学大学院
上智大学大学院
鹿児島国際大学
高次脳機能障害を考える・サークルエコ
身体障害者通所授産施設夢ひこうせん
鹿児島国際大学大学院
同志社大学大学院
社会福祉法人ヨニコマウル
久留米大学大学院
大阪府立大学大学院
旭川福祉専門学校
鹿児島国際大学大学院
共生館福祉医療専門学校
第一福祉大学
(福) 神戸少年の町 子ども家庭支援センター
玉東町社会福祉協議会
日本福祉大学大学院
聖徳大学
鹿児島国際大学大学院
玉名郡市医師会訪問看護ステーション
児童養護施設 聖家族の家
大阪府立大学大学院
沖繩大学
大阪府立大学大学院
法政大学大学院
Health Support Osaka
立正大学大学院
大邱大学校
長崎国際大学大学院
(学) 中川学園 広島福祉専門学校
吉備国際大学
奈良女子大学大学院
大阪市立大学大学院
日本福祉大学大学院
立正大学大学院
大阪府立大学大学院
尾道 YMCA 福祉専門学校
吉備国際大学
高知女子大学
川崎医療福祉大学大学院
大阪府砂川厚生福祉センター
株式会社ベンチャー・リンク
阪南中央病院
山梨県社会福祉協議会
日本福祉教育専門学校
(福) 京都福祉サービス協会
国立重度知的障害者総合施設のぞみの園
NPO 法人秋桜舎
皇學館大学大学院
志摩市福祉事務所
広島県子ども家庭センター
日本福祉大学大学院
目白大学
ユニ・チャーム株式会社
奈良女子大学大学院
皇學館大学大学院
関西学院大学大学院
駒澤大学大学院
折尾愛真短期大学
鹿児島国際大学大学院
関西学院大学
福山平成大学
東洋大学大学院
大阪府立大学大学院
東洋大学大学院
長安大学
関西福祉大学
東海大学伊勢原校舎
東京福祉大学
上智大学大学院
東洋大学大学院
鹿児島国際大学大学院
岡山県吉備の里生活支援センター
ケアハウスかしの木
和泉福祉専門学校
養護老人ホームおいたま荘
近畿福祉大学
特定非営利活動法人エンパワメント
東洋大学大学院
東洋大学



◆ 地方部会報告 ～2005年度事業報告～

◆ 北海道部会

北海道社会福祉学会第44回大会、理事会及び総会を2006年2月25日(土)に開催した。理事会、総会において、これまでの懸案であった北海道社会福祉学会の規約改正を行った。主な改正点は以下のとおり。

1) 日本社会福祉学会から地方部会への還元金制度の趣旨を生かすために、北海道ブロックに所属する日本社会福祉学会の全会員が自動的に北海道社会福祉学会の会員となるように改めた(これまでは北海道社会福祉学会に入会するために、入会手続きと年会費が必要であった)。

2) 個人会員を日本社会福祉学会の会員(A会員)と北海道社会福祉学会のみの会員(B会員)に改めた。

3) 年会費の変更をおこなった。A会員の会費は、日本社会福祉学会の地方部会還元金をもってあてる。

B会員の会費は、年額3,000円とする。

◆ 東北部会

1. 東北部会第6回研究大会の開催

テーマ:「東北における社会福祉の研究と実践課題を考える」

日時:平成18年7月15日(土)・16日(日)

会場:山形県社会福祉研修センター

参加者:約110名

(1日目)

基調説明:渡部剛士大会実行委員長

基調講演:杉浦文明氏「伝えられなかった障害者の願い」

シンポジウム:コーディネーター大和田猛氏/シンポジスト(佐藤嘉夫氏、君島昌志、本田久市氏、出雲祐二氏)

(2日目)

会員による自由研究報告:「高齢者福祉」、「地域福祉」、「児童・社会福祉援助等」の三分科会に分けて、19題の研究報告と参加者との討論を行った。また、自由研究報告と併行し、山形大会実行委員会の自主企画・ミニシンポジウム「山形の社会福祉を考える」を行った。

尚、本研究大会の自由研究報告の要旨等を、東北部会研究誌「東北の社会福祉研究第3号」に掲載予定

2. 東北部会研究誌「東北の社会福祉研究 第2号」を発刊

東北部会としての研究活動の積み上げと発展を方向付けることを目的とし、研究大会での報告内容を中心に、第2号では、研究論文(7本)、研究ノート(1本)を掲載した(A4版 総ページ数 115頁)。

3. ニュースレターの発行

東北部会ニュースレター第5号を平成18年2月28日に発行した。

4. 日本社会福祉学会東北部会幹事会の開催(期日・場所・主な協議内容)

(1)平成18年3月25日(土) 仙台市 メトロポリタンホテル仙台

・第6回東北部会研究大会の計画、研究誌第2号の発行について

(2)平成18年5月27日(土) 山形市 山形県社会福祉研修センター

・全国理事会報告、平成17年の事業報告および決算報告、第6回研究大会の準備、東北部会の活性化について

(3)平成18年7月16日(日) 山形市 山形県社会福祉研修センター

・第6回研究大会(山形大会)の振り返り、次年度の研究大会(宮城大会)の計画、東北部会の活性化について

◆ 関東部会

1. 運営委員会・総会

運営委員会と各部門委員会は、5月14日、7月4日、8月24日、9月9日、2月17日と、計5回実施した。臨時総会を2月17日に開催した。

2. 研究集会

「実践の科学化、研究方法論の構築を目指して」をテーマに小規模・参画型の研究集会を1回実施した。

企画:栃本一三郎委員、成瀬光一委員、澤伊三夫委員

期日:12月3日 参加者:89名

基調講演:「社会保障(ソーシャルプロテクション)の構造的転換—社会サービスの役割—」山崎美貴子先生(神奈川県立保健福祉大学)

研究発表会:

「理論部門」司会:坪洋一先生、コメンテーター:栃本先生

「制度・政策部門」司会:成瀬先生、コメンテーター:瓜巢一美先生

「方法論部門」司会:澤先生コメンテーター:福山和女先生

発表者:10名

3. ニュースレター

会員への情報の周知をはかるために23号10月17日発行、24号3月11日発行。

4. 研究論文集

研究論文集「社会福祉学評論」第6号・5月27日発行

◆ 中部部会

1 2005年度第1回幹事会 2005年4月23日開催 協議事項

(1)2004年度事業報告及び決算報告

(2)2005年度事業計画及び予算説明

(3)中部部会2005年度 秋の例会

日時 12月3日(水)

場所 日本福祉大学名古屋キャンパス

(4)2007年度春の例会の担当校 金城大学(石川県)

2. 2005年度第2回幹事会

2005年5月23日(月)18:00～20:00



於日本福祉大学名古屋キャンパス
協議事項

- (1) 2005 年「秋の例会」の開催について
 - 日時 12月3日(土)
 - 場所 日本福祉大学名古屋キャンパス
 - テーマ 社会福祉基礎構造改革の検証
- (2) 例会参加費の徴収について(継続審議)
3. 2005 年度第3回幹事会
 - 日時 7月4日(月) 18:00～20:00
 - 場所 日本福祉大学名古屋キャンパス
- (1) 2005 年度「秋の例会」について
 - テーマ: 社会福祉基礎構造改革の検証
 - 介護保険の問題をベースとしてシンポを行う
 - * 評価システム — 自己評価のシステムを高める
主体づくりと評価システム(平野)
 - * 実践の質をどのように担保するのか
質の担保に障害になっている問題をどのように克服するのか(野口)
 - * 現場からの実践報告
- (2) 例会参加費の徴収について(継続審議)
4. 2005 年度「春の例会」
 - 4月23日(土) 13:00～16:30
 - 於 岐阜市ハートフルスクエアG
 - シンポジウム: 「地域でつくる福祉コミュニティを考える— 岐阜県での取り組み『ふるさと福祉村』を糸口として」
 - 4月24日(日) 自由研究発表(計7人)

◆ 関西部会

1. 理事会・運営委員会の開催
 - 1) 理事会
 - 第1回理事会: 5月19日(木)
 - 第2回理事会: 3月5日(日)
 - ※随時、メーリングリストで意見交換
 - 2) 運営委員会
 - 第1回運営委員会: 9月22日(木)
 - 第2回運営委員会: 2月14日(火)
 - ※随時、メーリングリストで意見交換
2. 年次大会

2006年3月5日(日)実施。池田敬正会員による基調講演「社会福祉は現代に成立する」に続き、上掛利博会員を座長に、大友信勝会員のコメントを含めた議論を展開。研究発表は、所道彦会員を座長に、4つの報告があった。

 - ・身体障害者福祉施設の施設職員が認識する「自立」概念に関する研究: 仁坂元子(大阪市立大学大学院)
 - ・地域生活移行後の生活の質と支援のあり方— 知的障害者グループホームでのオンブズマン活動を通して: 高田さやか(鴻池社会福祉専門学校)
 - ・ソーシャルワークの精神— 日本における地縁・血縁と比較して: 樋口淳一郎(関西福祉科学大学大学院)
 - ・在日外国人 HIV 感染者— AIDS 患者を支援する NGO の支援の現状と課題: 岡部 正子(桃山学院大学大学院)
3. 若手研究者・院生情報交換会
 - 1) 第1回(2005年6月11日)
 - 人間発達に適的な福祉供給主体像の探究— 日

本とイタリアの福祉事業実践を通して— (問題提起: 鈴木勉会員)

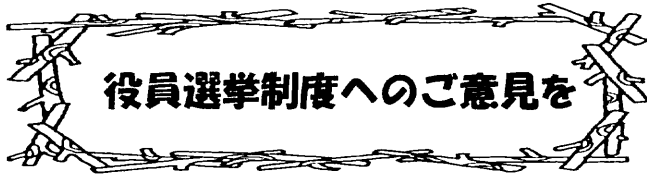
- 2) 第2回(2005年8月27日)
 - 次世代育成支援施策をめぐる国の動向と社会福祉研究(問題提起: 山縣文治会員)
- 3) 第3回(2006年1月15日)
 - ソーシャルワーク実践と研究の展開をめぐる— ジェネラリスト・ソーシャルワークを中心として— (問題提起: 山辺朗子会員)
4. ニュースレターの発行
 - 5月19日および12月5日の2回発行。

◆ 中国四国部会

1. 部会 運営委員会の開催(年2回、6月、2月)
 - 第1回 2005年6月11日(土) 12:00～12:20
部会総会時に開催
 - 第2回 2006年2月24日(金) 16:30～
(ホテルグランヴィア広島)
2. 第37回中国・四国部会大会の開催
 - 2005年6月11日(於: 島根県立女子短期大学で開催)
3. 部会 総会の開催
 - 2005年6月11日 部会大会 昼食時間
4. 部会 会報の発行 年2回
 - 2005年4月8日 発行(05-1)
 - 2006年1月31日 発行(05-2)
5. 部会組織の確立と活動の活性化
 - 役員体制の確立
 - 運営委員会 ⇒ 役員会に改称
 - 会員の増強に努めた

◆ 九州部会

1. 第46回九州部会大会・総会
 - (1) 開催日 2005年12月3日(土)
 - 自由研究報告 9:00～12:30
 - 総会 13:30～14:00
 - シンポジウム 14:20～17:00
 - 懇親会 17:00～19:00
 - (2) 大会テーマ
 - 21世紀の社会福祉を担うために
 - ～地域発の社会サービスを考える
 - (3) 会場 九州看護福祉大学
 - (4) シンポジウム
 - 「社会福祉制度改革と地域福祉の推進方策～公的福祉サービスと多様な社会サービスの統合化への提言～」
 - [シンポジスト]
 - 河津 亮(熊本県精神障害者団体連合会事務局長)
 - 田代久子(水俣市社会福祉協議会地域福祉コーディネーター)
 - 園田道子(NPO 子どもアシストセンターわくわく相談員)
 - 和田 要(熊本学園大学社会福祉学部助教授)
 - [コーディネーター]
 - 佐藤林正(九州看護福祉大学社会福祉学科教授)
2. 九州部会機関誌『九州社会福祉学』(研究紀要) 第2号発行



2007年度は学会役員選挙の年です。

前回役員選挙のあった2004年度から、会員数は1,000人以上増え、5,000人以上の会員が投票することとなります。

2004年度選挙の際、①学会役員は延べ5期は務められない、②地方部会担当理事は各地方部会で選出等の改正をしましたが、依然、①投票率の低さ、②経費の増加傾向等があり、まだまだ制度改正の余地があるようです。

このたび、会員よりご意見をいただくことにより、2007年度の役員選挙に活用させていただくだけでなく、2010年以降の選挙のあり方、改正にむけて参考とさせていただきますので、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

ご意見は、メール、FAX、封書等でお寄せください。

宛先は本ニュース奥付に記載しております。

事務局連絡

▲ 学会事務所の移転に伴い、9月から部屋番号が次のように変わりました。

森山ビル西館 401 ⇒ 森山ビル西館 303

▲ 会員登録変更届と退会届の各様式を学会ホームページに掲載いたしましたので、必要の際はご活用いただき、FAXまたはE-mailにて学会事務局までお知らせください。

▲ ご自宅のご住所・電話番号、ご所属先等の変更があった場合は、速やかにFAXまたはE-mailにてお届けください。

お届けが無い場合、会費請求や学会機関誌等が送付できない等の支障が生じますので、よろしくお願いたします。

▲ 変更のお届けがなく郵便物が戻ってきた場合、学会ホームページの「住所不明者」として掲載させていただきます。

編集後記

立教大学の先生方のご尽力によって、今年度の大会を迎えることができました。人間の生きる意味、生活している本人自身が、存在の意味や価値を探し出す作業と、その結果を問うことをテーマとした大会となります。

ところで、格差社会という言葉が人口に膾炙される状況になってからどれくらいたったでしょう。国民のすべてがまるで経済的に中流階級になったと感じていた時代から、バブル崩壊を経てその立ち直り過程のなかで使われるようになったと思われまます。さまざまな言葉が時代によって生み出されてきましたが、この格差社会という言葉は、かなり長く使われていると同時に、浸透度もかなり高いようです。裏返せば、それだけ格差社会が深刻であるということだと思えます。

社会福祉の経験知からいうと、長期化する格差社会は、階層間の移動可能性を低下させ、格差の世代間連鎖を生む可能性を示唆しています。社会福祉が目指す方向は、格差社会でもなく、階層固定社会でもないはずで、多様性を認めることが、格差を認めることにならない社会づくり、今回の大会テーマ、さらに、12月に予定している「政策・理論フォーラム」のテーマは、このことについて相互に議論をしようというものです。会員の皆様の積極的な参加を期待します。
(山縣文治)

| | | |
|-----|-------------------------------------|-------------------|
| 発行人 | 高橋 重宏 | 学会ニュース 43号 |
| 編集人 | 上野谷加代子 | |
| 発行日 | 2006年9月25日 | |
| 発行 | 日本社会福祉学会 | |
| | 〒160-0008 東京都新宿区三栄町8 | |
| | 森山ビル西館303 | |
| | TEL. 03-3356-7824 FAX. 03-3356-7820 | |
| | Email jssw@jt2.so-net.ne.jp | |
| | URL http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssw/ | |
| | 年会費振替(振込)口座(日本社会福祉学会) | |
| | ・郵便口座 00150-5-59882 | |
| | ・銀行口座 みずほ銀行四谷支店 / 普/1859336 | |
| | (9月20日現在会員数 5,157人) | |